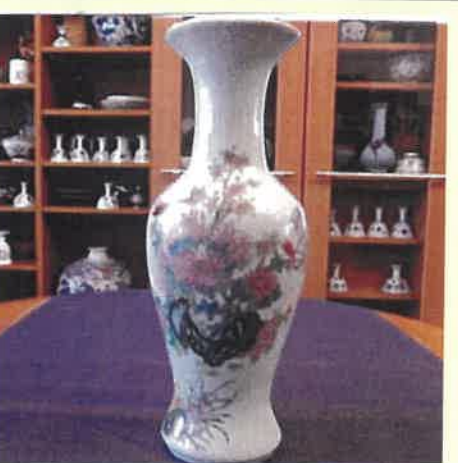
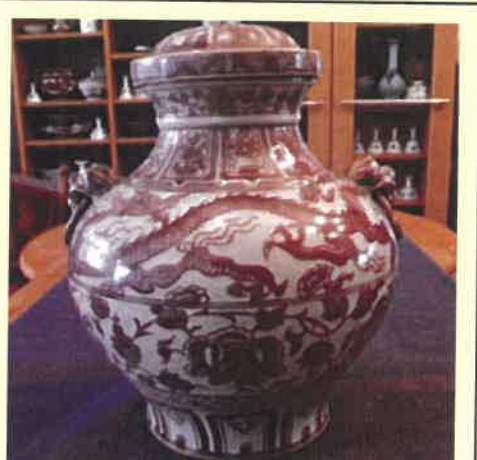


中国陶磁器展

風土入魂の精華 新石器から清朝まで



- 観覧料 無料
- 会場 成田市文化芸術センター スカイトウンギャラリー（スカイトウン成田5F）
- 期間 2020年5月2日（土）～5月23日（土）休館日 5/7（木）5/11（月）5/18（月）
- 開館時間 10：00～18：00（入館は17：30まで）
- 主催 中国陶磁研究中和堂会

中国陶磁器展 – 五千年の源流 –

この展示展は、元小布施中国美術館長の中国陶磁コレクター宋竹仙氏の御指導による中国陶磁研究会である中和堂会の会員数名のコレクションを開示発表するものです。

さて、中国陶磁は7千年前の土器の焼成から始まり、彩陶、灰釉から漢代は褐釉、緑釉が開発されました。青銅器製法の影響を受け、高火度釉が生まれ、青磁、白磁の開発により施釉陶器の発展をみます。施釉陶器は唐三彩により宮廷文化の頂点に達しました。明器であるが鑑賞陶器の誕生です。

その後磁器に移り、五代、北宋、南宋、金代代までは白磁、青磁の優品が多く製作されます。これらは広大な中国の北方、南方や国内各地の風土と統治者による影響を受けて特色ある作品が多種生産されます。天目茶碗は茶の湯の発展に、天青色の汝窯青磁は完成度の高い充実した作品です。

元朝に入ると官窯も生まれ、染付の絵付け磁器は大型化し大盤、大壺等が多量に生産され釉裏紅も開発された。世界各地へと輸出され、磁器の時代へと突入します。

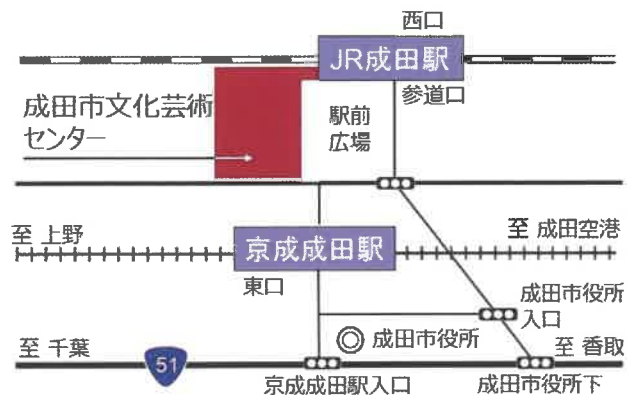
そして、明、清時代には統治者である各皇帝の特色ある陶磁器が生産されます。明代の洪武、宣徳帝代は、染付け磁器の優品が多く生産されました。成化は細密な絵付の作品、嘉靖、萬曆は五彩、金欄手、呉須赤絵による絵付けで華やかさを持っています。清朝代は、特に康熙、雍正、乾隆代には、豆彩、粉彩、法瑯彩により絵付けが一層発展し美しい輝きをもつ多大の優品が生産されました。

これらの各時代の特徴ある磁器は東京、大阪の美術館の展覧会に出品された作品と同等の価値ある優品です。

約70点展示しますので、ぜひ足をお運びご覧ください。

	日本	中国
紀元前	縄文時代	漢
1世紀	弥生時代	
2世紀		
3世紀	古墳時代	三国 晋 南北朝
4世紀		
5世紀		
6世紀	飛鳥時代	隋
7世紀		唐
8世紀	奈良時代	
9世紀	平安時代	
10世紀		
11世紀		宋
12世紀	鎌倉時代	元
13世紀		室町時代
14世紀		
15世紀	安土桃山時代	
16世紀	江戸時代	清
17世紀		
18世紀		
19世紀	明治	中華民国
20世紀	大正 昭和	
21世紀	平成 令和	

ご案内 成田市文化芸術センター
 〒286-0033 千葉県成田市花崎町828-11
 TEL 0476-20-1133
 スカイトウン成田5F スカイギャラリー-C.D
 展示責任者 TEL080 5516 8429 (鈴木)



※当施設専用駐車場はございません。
 公共交通機関又は周辺有料駐車場をご利用ください。
 ●JR成田駅から徒歩1分 ●京成成田駅から徒歩2分